

Ⅱ部

日本遺産編





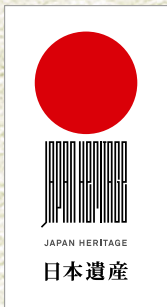
やまがたの紅花 084

日本遺産

いにしへの風情に浸りながら、
先人たちが培ってきた思いを受け止め、
歴史を未来へとつなぐ



やまがたの紅花 085



日本遺産とは

「日本遺産 (Japan Heritage)」とは、地域の歴史的
魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語る
ストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」
として文化庁が認定するものです。

山寺が支えた紅花文化

山形県で古くから栽培され、県の花にも指定されている紅花。江戸時代の最盛期には、全国生産量の50~60%を占め、質量ともに日本一と言われました。質の高い山形の「最上紅花」は上方で高級品として扱われ、紅花商人による交易を通して、この地に莫大な富と豊かな文化をもたらしました。この紅花は、栽培、交易などの面で山寺と歴史的な関わりがあり、「山寺が支えた紅花文化」として平成30年度に文化庁から「日本遺産」に認定されました。

山寺が支えた紅花文化



日本遺産認定ストーリー概要

〈H30.5.24認定〉

鬱蒼と茂る木々に囲まれた参道石段と奇岩怪石の景勝地「山寺」。この山寺が深く関わった紅花栽培と紅花交易は、莫大な富と文化をこの地にもたらしました。石積みの堀と板黒塀と堀に囲まれた広大な敷地を持つ豪農・豪商屋敷には白壁の蔵座敷が立ち並び、上方文化とのつながりを示す雅な雛人形や紅花染めの衣装を身に着けて舞う舞楽が今なお受け継がれ、華やかな彩りを添えています。この地の隆盛を支えた山寺を訪れ、この地域に今も息づく紅花畑そして紅花豪農・豪商の蔵座敷を通して、芭蕉も目にしたこの地域の隆盛を偲ぶことができます。

1.山寺が深く関わった紅花交易ゆかりの文化財(主なもの)



最上川(寒河江市、天童市、尾花沢市、中山町、河北町)
 県土を貫き日本海に注ぐ母なる川。流域面積は山形県の面積の約75%にあたり、日本三大急流の一つ。最上川の氾濫原と朝霧や朝露がたちやすい気候条件が紅花栽培に適し、沿岸の集落が紅花の主要な産地となりました。紅花は最上川舟運により上方に運ばれました。



紅の蔵及び収蔵資料(旧長谷川家)(山形市)
 江戸時代、紅花商人(豪商)として活躍した長谷川家の屋敷。通りに面し、門を構え、店蔵、座敷蔵が残っています。



芭蕉、清風歴史資料館(旧丸屋鈴木家)(尾花沢市)
 江戸時代、紅花商人(豪商)として活躍した鈴木清風を紹介する資料館。俳人でもあった清風は松尾芭蕉に山寺参詣を勧め、その道中、芭蕉は紅花畑や山寺で名句を残しました。



紅花資料館及び収蔵資料(旧堀米家)(河北町)
 江戸時代、紅花商人(豪農)として活躍した堀米家の屋敷。座敷蔵、御朱印蔵、母屋、武者蔵、雛人形、紅花染め衣装などが残っています。

町指定有形文化財



旧柏倉家住宅及び収蔵資料(中山町)
 江戸時代、紅花生産者(豪農)として活躍した柏倉家の屋敷。主屋、長屋門はじめ附属屋、土蔵などの屋敷構え。座敷蔵には上方由来の雛人形をはじめ、数多くの調度品が残っています。

県指定有形文化財



ふるさと資料館及び収蔵資料(旧佐藤家)(山辺町)
 江戸時代、紅花、青苧等を幅広く扱う商人(豪農)として活躍した佐藤清五郎家の屋敷。享保雛や古今雛、紅花染め衣装などが残っています。

2.山寺・紅花交易がもたらした紅花文化ゆかりの文化財(主なもの)



林家舞楽(河北町)

山寺立石寺建立とともに上方より伝えられた舞楽。谷地八幡宮神職林家により一子相伝で1,100余年にわたり伝承されています。紅花染めの衣装が用いられます。

国指定重要無形民俗文化財



本山慈恩寺本堂(寒河江市)

慈恩寺本堂前において、林家と慈恩寺一山衆によって慈恩寺舞楽が奉奏されます。

国指定重要文化財



紅花屏風(山形市)

●紅花屏風:㊦長谷川コレクション・山寺芭蕉記念館 所蔵

江戸時代に「最上紅花」の名で知られた山形の特産品紅花の栽培から収穫、紅餅に加工する作業や上方へ運び取りさるの様子を描いた屏風。

県指定有形文化財



尾花沢雅楽(尾花沢市)

江戸時代、紅花交易が盛んだった頃、最上川舟運を介しもたらされた宮廷の風雅な調べが念通寺を中心に伝承されています。

市指定無形文化財



芭蕉の句碑(天童市)

「眉掃きを佛にして紅粉の花」。江戸時代に山寺参詣の途中、紅花畑を目にした芭蕉が紅花を題材に句を詠んだという場所に句碑があります。



きょうほう だいらびな
享保内裏雛(河北町)

上方との紅花交易によってもたらされた、華やかな雛人形のひとつです。

町指定有形文化財

紅花染め衣装(元禄紅花染小袖)(山辺町)

紅花は上方に運ばれたのちに西陣織などの染料となりました。豪農商が上方から買い求めた紅花染め衣装が当地には数多く残ります。

町指定有形文化財



〔山寺〕

860(貞観2)年、清和天皇の勅願により慈覚大師が開いた、天台宗の寺院「立石寺」を中心とする通称「山寺」。1015段の石段を上りながら眺める切り立った崖に立つお堂や、自然の神秘あふれる奇岩怪石はまさに絶景!

〔松尾芭蕉〕

江戸時代前期の俳人。弟子の曾良を伴って江戸深川を出発し、東北、北陸、岐阜の大垣までの約2,400kmを約5か月半かけて旅をしたのは1689(元禄2)年のこと。山形に立ち寄った時に詠んだ「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」は代表的な一句。



〔芋煮〕

江戸時代、最上川流域の船着場で船頭たちが地元で収穫された里芋と舟運で運ばれた棒だらを一緒に鍋で煮て食べたのが「芋煮」のルーツ(諸説あり)。



3. 日本一の紅花産地を支えた紅花栽培にかかる文化財(主なもの)



紅花畑の景観(山形市、天童市、中山町、河北町)

紅花栽培は当地の気候風土と合い、江戸時代には全国生産の大半を占めました。紅花は、西陣織や化粧用に加工される貴重な赤い染料として高く評価され、当地を経済面でも文化面でも大きく発展させました。7月になり開花が始まると、県内の生産地や紅花まつりの会場となる紅花畑は一面の黄色で埋めつくされます。

紅餅の製作技術

(山形市、天童市、中山町、河北町)

紅花に含まれる赤い色素はわずか1%。収穫後によく洗って黄色素を取り除き、干して丸めて乾燥させた紅餅の状態でお届けしました。当地産の紅餅は品質の良い高級品で「最上紅花」と呼ばれその取引が当地に経済的発展をもたらしました。



紅花まつり(山形市、天童市、中山町、河北町)

江戸時代に当地で盛んに行われていた紅花の収穫、紅餅づくり、紅花染めなどが体験できる初夏のまつり。

映画「おもひでぼろぼろ」の舞台となった山形市高瀬地区、中山町旧柏倉九左衛門家周辺、天童市上貫津地区、河北町紅花資料館などで毎年7月上旬に行われます。



【おみづけ】

おみづけは青菜とにんじんや大根、シソの実などを漬けたもの。当時、山形の人が青菜の葉先を捨てていたのを見た近江商人が、余った野菜を無駄にせず漬け物にして食した。「近江漬け」が訛って「おみづけ」と呼ばれるようになりました。

【花笠まつり】

東北四大まつりの一つとして数えられる花笠まつりは、踊り手が手にしている花笠は、紅餅をむしろに広げて干す様子を、踊り手が練り歩く姿は一面に広がる紅花畑の光景をあらわしています。



【ひな市(ひなまつり)】

北前船の帰り荷として京都から運ばれた雛人形が、県内各地に数多く残ります。毎年、ひなまつりの時期には「ひな街道」、〈雛のみち〉などのイベントが開かれ、当時の繁栄を伝える雅な人形の姿を一目見ようと、全国から多くの人々が訪れます。